

E 15 九州における高齢者の生活実態 - 佐賀県伊万里市大川町における - 第3報  
元福岡教育大 平田 昌 ○東筑紫短大 花崎正子  
西九州大家政 河野孝子 活水女短大 赤星礼子

目的 伊万里市大川町の高齢者(60才以上)の個々が持つ問題と社会とのかかわり方を明らかにする。

方法 高齢者個々が持つ問題は、高齢者の生活不満・不安、健康状態、生きがい、自由時間の4側面から、高齢者の社会とのかかわり方は、高齢者の近所づきあい、社会团体・グループへの加入状況、友人の有無・知りあひたきかけの3側面から調査分析した。

結果 高齢者の「生活不満・不安54%」はかなり高い。「悩みの相談相手」は「子や家族40%」「配偶者31%」「親せき6%」など、ほとんど「血縁・親族関係」で代表される。高齢者の70%が健康状態は良好で、女性の方がやや良い。ほとんどの高齢者が「生きがい」をもっているが、その主たる内容は「健康で長生き45%」「子や孫の幸せ26%」と極めて自分や家庭中心である。「自由時間」はかなり多くてりよが、その過ごし方は「テレビ・ラジオ54%」「新聞・雑誌35%」「身のまわりのこと31%」「庭いじり27%」などやはり家庭内である。

高齢者の社会とのかかわり方としてこの「近所づきあい」は高齢者の75%が良好で、とくに女性の方が加齢が進んでも良好である。高齢者の約90%弱は「親しい友人」を持ち、「知りあひたきかけ」は「近所下から42%」が圧倒的に多い。「団体・グループへの加入率81%」は高く、その主たるものは「老人クラブ26%」「宗教団体12%」「懇協、迎協、同業組合11%」「町内会・自治会11%」であり、「加入しては、た」と肯定的に評価している。全般的に、社会とのかかわり方はとれなりに行なわれているが、自らの積極的意識というよりも、地域的に設定された条件の中での受動的行動のひろがりとしてのものである。